

写真で見る浪曲人生
木村若衛 きむらわかえ
 十年先を考えることと独創性が
 成功の秘訣だった

文・おさだ衛



本名・稲葉幸太郎。大正2年、横浜市生まれ。84歳。昭和3年、初代・木村友衛に入門。「師匠は当時、若手のトップです。レコードの吹き込み料が一枚、千円でした。三千円で当時は三軒長屋が建ちました」。戦中、戦後、浪曲の立役者。昭和33年、最年少の45歳で日本浪曲協会会長に就任。昭和56年、紫綬褒章。61年には勲四等旭日小綬章を受賞。現役引退後のいまも浪曲再興の念に燃えて後輩の指導にあたっている。写真は曲師・山本太一と節づくりに余念がない稽古風景（昭和54年、高木康允・撮影）

戦後の浪曲の黄金期を作り、いまは20年も「日本演芸家連合」の会長を務める木村若衛師。木村若衛師の足跡は浪曲の歴史でもある。師を東京は東日暮里のお宅に訪ねた。



昭和24年の東京・丸の内「有楽座」の浪曲大会。前列右から、先代・春日井梅薫、二代目・広沢虎造、若衛師、若衛師の師匠の初代・木村友衛。「芝居をたくさん見ろが師匠の口癖でした」

若衛師の成功の要因は三つある。独創性。10年先を考えて行動したこと。人との関わりを大切にしたことだ。まず独創性とは。「私の師匠の教えが『オレの真似をするな』でした」

声を「普通の声」である上声にした。「関東節で上声は自分だけ。周りからは非難されました。しかし上声は女の声や子供の声が無理なく使えて歌も入れられました。浪曲ファンでない人にも聴きやすく受け入れられましたよ」

若衛師の声をみこんでNHKから洋楽器を伴奏にしての浪曲という依頼が来た。ジャズピアノの伴奏で演じた浪曲は「歌謡浪曲」として昭和14年にラジオ放送され話題を呼んだ。「チョコレートと兵隊」や「夢の鉄かぶと」などで、録音が現存していないのが残念だ。

昭和32年には「キリシトホロ上人」（芥川龍之介・原作、武智鉄二・演出）という人形と人間が絡み合う野心作で画期的な浪曲を発表した。また昭和36年にはニッポン放送で「孫悟空」や「猿飛佐助」をオーケストラをバックに節を使い人気を博した。

失敗をおそれずに10年先の収穫をめざして新しいことに挑戦し、ことごとく称賛を得てきた。

新作も1年に4、5本は手掛けた。

「百以上ありますが、ものになった作品はすくなくいですね。私には女性を主人公にした新作が多いんです。大衆小

説を読んで、これだと思おうと原作者の作家の先生に会いにいきました」

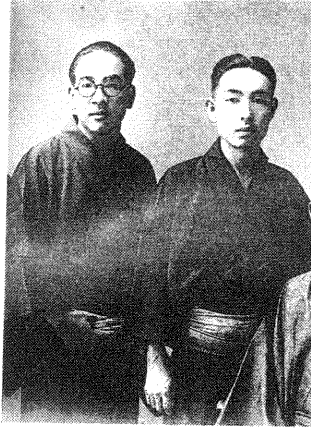
その結果、長谷川伸、子母沢寛、村松梢風という錚々たる作家の知遇を得た。人脈という大きな財産だ。

「直接あつて頭を下げれば快諾してくれる場合が多かった。私は駆け出しの時代から作家の先生に無断で演じたりしてはいないのです」

作家の著作権を侵害しないという意識は、日本演芸家連合の会長以前から備わっていたのだ。

いわゆる新作だけでなく木村家のお家芸である「河内山」や「塩原多助」なども改めてある。

「師匠の演じたとおりでなく、すべて洗いなおしてあります。たとえば「河内山」だと師匠が酒の機嫌で河内山と演じたところは、からりとあげた春の朝、すりばち山は花吹雪々と変えて



昭和18年、若衛師（写真右）と山本太一師。「40年以上のつきあいになるとは当時思ってもみませんでした。二人でいい芸を作る格闘をしました」

あります。師匠の豪放磊落さと私とは違うからです」

人との関わりや出会いを若衛師は人一倍、大切にします。若衛師の合三味線は山本太一（平成7年没、88歳）で名曲師だった。

「私が今日あるのは山本さんのおかげです。山本さんとは昭和16年に出会ってから40年以上のコンビでした。浪曲は曲師が肝心なんです。しかし太夫は有名でも曲師は名前が残らない。金面でも冷遇されていきました。私はギヤラを歩合制にして太一さんに納得してもらって務めていただきました」

戦災で住む家を失った若衛師が自分より先に山本太一師の家を買ってあげたというエピソードで、曲師をどれほど大事に思っていたかが、わかる。

「芸能人は自分の力だけでは、どうにもなりませんよ。人との出会いを大切に、救いの手を差し延べてくれた



昭和60年、浅草公会堂の浪曲大会。芝居で「勸進帳」の富樫を演じた。左は愛妻の昭子（てるこ）夫人、晩年は若衛師の合三味線を務めた。（平成5年に死去）

方の恩を忘れてはいけません」

若衛師は人に接するときは「上下の境をつけない」ことを心がけている。

「年下や目下を見下したりバカにしたりはしたことはありません」と、これも10代の頃から自分に戒めてきたことだという。取材者のこちらは目を見開かされた思いで、勉強になりました。

10年先を考えると、獨創性。このふたつが浪曲の将来を決定するキーワードに間違いはないだろう。



昭和61年、勲四等旭日小綬章・受賞パーティ。お祝いを述べる村田英雄。村田英雄が若手の頃、若衛師が「割り看板」で売出しに協力したこともあり「いまでも村田君は先生、先生とばかりを立ててくれますよ」

浪曲... これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

37
52

浪曲家の皆さん... 頑張って下さい。多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉